

Title	目で見るWHO 第57号 表紙・目次・資料等
Author(s)	関, 淳一
Citation	目で見るWHO. 2015, 57, p. 1-3
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/86677
rights	
Note	

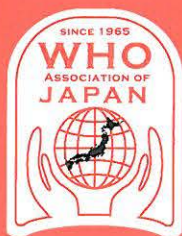
Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

目で見る WHO

Food safety:
From farm to plate,
make food safe



— 第57号 —

2015 夏号

発行 公益社団法人 日本WHO協会

日本WHO協会とは

公益社団法人日本WHO協会は、世界保健機関(WHO)憲章の精神を普及徹底し、その目的達成に協力し、我が国及び海外諸国の人々の健康増進に寄与することを目的として設立された団体です。設立より半世紀近く、関西を拠点にグローバルな視野から国内外の人々の健康を考え、行動しており、今後も積極的に目的達成のため活動していきます。

- (1) WHO憲章精神を普及するための健康に関するセミナー等の開催及び機関誌・広報等の啓発事業
- (2) 健康に関する調査研究の受託・委託及び助成並びに研究成果に基づく提言等の研究事業
- (3) 国内外で健康に関する社会貢献活動を行う企業、団体並びに個人との連絡・調整・協力等の連携事業
- (4) WHOの事業目的達成に寄与するための募金活動及び募金収益の拠出並びに活動協力等の支援事業
- (5) 国内外の健康の向上につながる人材の育成・援助等の人材開発事業

C O N T E N T

ごあいさつ	1
沿革	3
●日本WHO協会フォーラム「感染症 正しい知識と予防」 インフルエンザを含めた国内の感染症流行について安井 良則...	4
●日本WHO協会フォーラム「感染症 正しい知識と予防」 エボラ出血熱を含む世界の感染症流行について ～新興感染症への考え方～	砂川 富正...16
● Food Safety 食品安全 我が国における食品の安全性確保について.....	姫田 尚...29
●WHO/WPRO インターンシップ体験記 WHO西太平洋地域事務局でのインターンシップを経験して	
●国際保健医療	吉田 朋美...33
西アフリカにおけるエボラウイルス感染症対応チームに参加して —感染症流行対応支援者の安全と健康の視点から—	吉川 徹...36
フォーラム開催のお知らせ	41

ごあいさつ



公益社団法人 日本WHO協会
理事長 関 淳一

今年も、日本列島の各所で、桜の季節も終り、新年度が本格的にスタートしました。

昨年は、特に春以後、西アフリカでのエボラウイルス症の outbreak が世界中の国々に改めて感染症対策の見直しを求める結果となりました。私は、「もはや一国では国民の健康を守れない」と言うWHO出発の原点を見ている様に感じました。同時に、マスメディアによる連日の報道を見て、国民一人、一人が感染症に対する正しい知識をもち、正しい情報に基いた、冷静な判断を求められていることを強く感じました。

この様なことを踏まえ、去る2月12日に、大阪において「感染症 正しい知識と予防」というタイトルでのフォーラムを開催し、安井良則先生と砂川富正先生に、御講演いただきました。今回、その時の御講演の内容を本誌に掲載させて頂きました。是非参考にして頂きたいと思います。

更に、この度リベリアにおいて、WHO労働安全衛生コーディネーターとしてエボラ対策に従事され2月末に帰国された労働科学研究所の吉川徹先生に現地での御経験について御寄稿頂きました。吉川徹先生には帰国されたばかりの極めて御多忙の中、御執筆頂き厚く御礼申し上げます。

ところで、WHOの今年の世界保健デー(4月7日)のテーマは「食品安全」でスローガンは「あなたの食べ物はどれくらい安全ですか」です。このテーマが選ばれた背景について、マーガレット・チャン事務局長は、今や私達の食卓の上の食べ物の材料や加工の過程はグローバル化しており、国際的にも又各国においても食品由来の疾病の予防に対する体制の確立が必要であると述べています。

今回、我国のこの方面への取組の全体像について、内閣府食品安全委員会の姫田尚事務局長に、食品安全委員会設立の経緯や求められている使命等について、御寄稿頂きました。皆様と共に今後の参考にさせて頂きたいと思っております。

そして、私共が健康に生きていく為の基である日常の食について、この際皆で少

し立ち止って考える機会にしたいと考えて、大阪青山大学の東根裕子教授を講師にお迎えし、「食と健康」をテーマとしたフォーラムを開催致します。

去る2月13日から3日間にわたり、日本歯科医師会とWHOの共催による「世界会議2015」が東京国際フォーラムにおいて開催されました。この世界会議は、急増する高齢者の健康を守る為に、今後の歯科医療、口腔保健のあり方を考える一つのステップとして、同じ課題に直面する多くの国の人々が一堂に会し議論することを目的に、日本歯科医師会の提唱で開催されました。テーマは「健康寿命延伸のための歯科医療・口腔保健」でした。

大久保満男日本歯科医師会会長は、日本人の平均寿命と健康寿命の格差の現実とそれに伴って起っている高齢者の実態等について、日本の公的医療保険制度との関連についても触れながら問題提起をされました。WHOを代表して、B.W.Bettcher生活習慣病予防部長が「21世紀における生活習慣病予防とコントロールーWHOの戦略ー」と題して、開会特別講演をされ、その中で口腔保健の推進との関連について述べられました。24ヶ国の参加のもと各々の国の立場で率直な議論が行われ、大久保会長のリーダーシップのもとで極めて有意義な世界会議でした。

この度、WHO西太平洋事務局における6ヶ月のインターンシップを終えて3月末日に帰国された、群馬大学大学院保健学研究科准教授の吉田朋美先生にマニラでの御経験について御寄稿頂きました。多職種連携教育をテーマとした、6ヶ月間の充実した研修の成果を拝読し私共協会としてインターンシップへの助成事業を更に充実せねばと強く思いました。

終わりに当り、今回「目で見えるWHO」57号を発行するに当り、御協力賜りました皆様に改めて、協会を代表して、心から御礼を申し上げます。

(公社) 日本 WHO 協会の沿革

- 1948 [「WHO憲章」が発効し、国連の専門機関として世界保健機関 (WHO) が発足する。]
- 1965 WHO憲章の精神普及を目的とする社団法人日本WHO協会の設立が認可された (本部 京都)。会報発行、WHO講演会等の事業活動を開始。
- 1966 世界保健デー記念大会開催事業を開始。
- 1970 青少年の保健衛生意識向上のため、作文コンクール事業を開始。
- 1981 老年問題に関する神戸国際シンポジウムを主催。
- 1985 WHO健康相談室を開設、中高年向け健康体操教室を開講。
- 1994 海外のWHO関連研究者への研究費助成事業を開始。
- 1998 京都にてWHO創設50周年シンポジウム「健やかで豊かな長寿社会を目指して」を開催。
- 2000 WHO健康フォーラム2000をはじめ、全国各地でもフォーラム事業を展開。
- 2006 事務局を京都より大阪市内へ移転。
- 2007 財団法人エイズ予防財団 (JFAP) のエイズ対策関連事業への助成を開始。
- 2008 事務局を大阪商工会議所内に移転。定期健康セミナー事業を開始。
- 2009 「目で見るWHO」を復刊。パンデミックとなったインフルエンザに対応し、対策セミナーを開催。
- 2010 WHO神戸センターのクマレサン所長を招き、フォーラム「WHOと日本」を開催、WHOへの人的貢献の推進を提唱。
- 2011 メールマガジンの配信を開始。
- 2012 公益社団法人に移行。
世界禁煙デーにあたってWHO神戸センターのロス所長を招き、禁煙セミナーを開催。
- 2013 第5回アフリカ開発会議公式サイドイベントとしてフォーラムを開催。
- 2014 WHO本部から発信されるファクトシートの翻訳出版権を付与される。

第二次世界大戦の硝煙さめやらぬ1946年7月22日、世界61カ国がニューヨークに集い、すべての人々が最高の健康水準に達するためには何をすべきかを話し合い、その原則を取り決めた憲章が採択され、1948年4月7日国連の専門機関として世界保健機関WHOが発足しました。

当協会は、このWHO憲章の精神に賛同した人々により、1965年に民間のWHO支援組織として設立され、グローバルな視野から人類の健康を考え、WHO憲章精神の普及と人々の健康増進につながる諸活動を展開してまいりました。

歴代会長・理事長、副会長・副理事長 (在職期間)

会 長 ・ 理 事 長	中野種一郎(1965-73)	副 会 長 ・ 副 理 事 長	松下幸之助(1965-68)	加治 有恒(1996-98)
	平沢 興(1974-75)		野辺地慶三(1965-68)	坪井 栄孝(1996-03)
	奥田 東(1976-88)		尾村 偉久(1965-68)	堀田 進(1996-04)
	澤田 敏男(1989-92)		木村 廉(1965-73)	奥村 百代(1996-06)
	西島 安則(1993-06)		黒川 武雄(1965-73)	末舛 恵一(1996-04)
	忌部 実(2006-07)		武見 太郎(1965-81)	中野 進(1998-06)
	宇佐美 登(2007-09)		千 宗室(1965-02)	高月 清(2002-06)
	関 淳一(2010-)		清水 三郎(1974-95)	北村 李軒(2002-04)
			花岡 堅而(1982-83)	植松 治雄(2004-06)
			羽田 春免(1984-91)	下村 誠(2006-08)
	佐野 晴洋(1989-95)	市橋 誠(2007)		
	河野 貞男(1989-95)	更家 悠介(2008-)		
	村瀬 敏郎(1992-95)			